

冬の夜長の日本酒

日本各地に残る「日本清酒発祥の地」碑

日本酒の起源は諸説あり、日本酒の原料となる稲作が伝わった弥生時代であるといわれる一方、縄文時代にはすでに米を使った酒が飲まれていたとする説もあります。「日本清酒発祥の碑」は宮崎、奈良、伊丹にあり、各々伝承が伝えられています。1700年前の「魏志倭人伝」に倭人は酒を好むという記述があるそうです。



日本酒発祥当時の酒造りの製法は？

日本酒発祥当時、酒造りの製法の1つとして「口噛みノ酒」に関する記述が残っています。口噛みノ酒とは、神事に携わる巫女がお米を口の中で噛み、唾液に含まれる酵素によって発酵させたお酒のこと。映画の「君の名は」に登場したのでご存知の方もいるのではないのでしょうか。

神話に残る「八塩折之酒」

日本の書物に初めて酒の記述が出てくるのが「古事記」「日本書紀」です。スサノオがヤマタノオロチを「八塩折之酒」で酔わせて成敗したという出雲神話です。現在島根県の國キ酒造でこの酒の再現に取り組みました。「八塩折之酒」は、複数回仕込んだ強い酒であると記述されていて、なかなか再現が難しかったようです。特殊醸造「八塩折」が発売されています。赤 3000 円、黒 4000 円、紫 5000 円です。いずれも200mlです。



神様と一緒に飲むお酒

お正月には「お神酒」をいただくように、日本酒は「酔うため・楽しむため」だけのお酒ではなく、「日本の神々と暮らす」ために必要な存在でもあります。例えば、神社で行われるお祭りではお供え物として日本酒が捧げられ、ご神事が終わると「おさがり」として私たちも神様のご相伴にあずかることがあります。神話の中にお酒の話がよく出てくることから

もわかるように、日本酒は私たちと日本の神々をつなぐ、大切な存在なのです。

天皇家の儀式「新嘗祭」のお酒は？

天皇がその年の収穫を言祝(ことほぐ)新嘗祭では、そこで献上される酒は醸した原酒を濾した白酒と白酒に常山木(くさぎ)の灰を入れた黒酒の2種類です。

日本酒と清酒

「日本酒」は広い意味でも使われますが、厳密な定義があります。『国産の原料で国内生産された清酒』だけをいうため、同じ製法でも海外産の場合は日本酒とはならず、「清酒」とラベリングされます。「日本酒」はその名の通り日本ブランドということですね。



清酒の発祥は奈良県の僧侶が担った

日本酒造りの源流は「僧坊酒」だった。「室町時代の醸造技術書『御酒之日記』に正暦寺で初めて酒造りが行われ菩提泉という酒ができたとあります。近年、この酒母を菩提醗といい、菩提泉復活のため境内から3,000もの菌が採取され、酒造りに最適な酵母が培養されました。2021年から復活醸造された「菩提泉」は、まだ少量で価格は高めですが室町の酒の味がするそうです。

日本酒の飲み方

戦前まで酒は温めて飲むものでした。冷酒はありません。戦後冷蔵技術の進歩で今のように冷酒で飲めるようになったとのこと。



日清・日露戦争は酒税で賄われました

明治になり税収増大に迫られた明治政府は酒を標的に税収拡大を図りました。日露戦争時には税全体の40%が酒税でした。

本醸造酒の始まり

極寒の満州で酒を凍らせないため醸造アルコールの添加が認められました。これが本醸造酒の始まりです。

赤穂浪士の討ち入りの酒

赤穂浪士が討ち入りの際に出陣の杯を酌み交わした酒が「剣菱」でした。江戸で大人気になり蔵元番付でトップになりました。また、暴れん坊将軍の徳川吉宗の御前酒でもありました。

司馬遼太郎の「竜馬がゆく」で有名になった酒

司馬遼太郎が土佐藩士の酒宴に登場させて有名になったのが高知の酒「司牡丹」です。酒豪用の酒と紹介されました。

日本酒ランキング(SAKETIMEより)ベスト5

- 1位 十四代(じゅうよんだい) 山形 | 高木酒造
- 2位 陽乃鳥(ひのとり) 秋田 | 新政酒造
- 3位 信州亀齢(しんしゅうきれい) 長野 | 岡崎酒造
- 4位 No.6(ナンバーシックス) 秋田 | 新政酒造
- 4位 OCEAN99(オーシャン ナインティナイン) 千葉 | 寒菊銘醸



「SAKE」としての日本酒の海外人気について



(※出典:国税庁「最近の日本産酒類の輸出動向について」をもとに作成)
近年、日本酒は日本の伝統的なお酒として、海外からの人気が高まっています。国税庁の「最近の日本産酒類の輸出動向について」では、清酒の輸出金額が好調に推移していることがわかります。